



校訓：進取 敬愛 剛健

児童像 【考える子 思いやる子 たくましい子】

英田っ子

学校だより 5月号

平成28年5月2日

校長 藤井 恒雄

「あ・い・さ・つ」

立夏（5月5日）を迎えると山野に新緑が目立ち始め、爽やかな風が夏の気配を感じさせるようになります。子ども達は、若葉に負けないように心も身体もたくましく成長して欲しいと願わずにはられません。

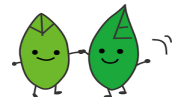


新年度がスタートして早1か月が経ちました。これまで大きな事故や怪我もなく、子どもたちが元気に登校しています。これも保護者の皆様や地域の方々のおかげです。感謝申し上げます。また、去る23日（土曜授業日）には、授業参観、PTA総会、学年学級懇談会に多数ご出席をいただきありがとうございました。

さて、1ヶ月たったのお子様の様子はいかがでしょうか？当初は児童玄関に入る表情に不安な様子が見られた1年生も今ではすっかり学校生活にも慣れ、休み時間には学校中を探検に出かけています。2年生以上の子どもたちも、運動場や体育館、それぞれお気に入りの場所で遊んでいます。学校は子どもたちの賑やかな声でいっぱいです。しかしながら、様々な問題や課題が見えてくるころでもあります。気を引き締め、丁寧に対応していこうと思います。

朝、児童玄関に立っていますと進んで元気よく挨拶をする子がいます。「〇〇先生、おはようございます。」と丁寧に言ってくれる子もいます。本当にうれしいものです。しかし、地域の方やPTAの方から、「挨拶をしてくれる子が少ない」といった声をまだまだ伺うこともあります。「挨拶」は、人として生きいく上で大切なこと、人と人とをつなぐ基本だと思っています。

「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」「ただいま」「いただきます」「ごちそうさまでした」「おやすみなさい」当たり前のことですが、言われなくてもごく自然に出てくるようになると本物だし、とてもすてきです。



「あ：あかるく い：いつも さ：さきに つ：つづける」

場に応じて、ごく自然に、心のこもった「挨拶」ができる英田っ子であってほしいと思います。

さて、「ABCDの原則」という法則をご存知でしょうか。ある教育情報誌に載っていたものです。「ABCDの原則」とは、

「A：当たり前のことを B：バカにしないで C：ちゃんとやれる人が D：できる人」

ということです。日常生活の中で些細なことだけれど、それをきちんとできるということの積み重ねが、その人の生き方を形づくっていくのだと思います。きちんと靴が納められている下駄箱やきちんと並べて掛けてある雑巾。当たり前の風景でありながら、きれいに整えられている様子は、とても清々しく、また、このようにしている子どもたちの心根がうれしく感じます。「当たり前のこと」は他にもいろいろあります。

- ・チャイムが鳴ったら席に着く。
- ・給食の食器を丁寧に食器かごに揃えて戻す。
- ・図書室の本を元の場所にきちんと返す。
- ・話は人の目を見て聴く。……等。

このような当たり前の平凡なことを、面倒くさがらずにきちんと継続してできることが、大きなことを成し遂げる基礎になるのではないのでしょうか。この時期、各クラスでは学校生活の仕方や学級でのルールを確認したり、話し合ったりしています。それらのことをみんなできちんとできるようにすることによって、学校生活を楽しくし、良い学習環境を作る鍵になるとと思います。

ご家庭でも、使った物の後片付けや家族の一員としての役割・お手伝いなど「ABCDの原則」を実践されてみてはいかがでしょうか。